

都市再生整備計画

つがいけこうげん はくばのりくらおんせん はくば じょうちく
柵池高原・白馬乗鞍温泉・白馬コルチナスキー一場地区

ながのけん おたりむら
長野県 小谷村

令和8年3月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	<input type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金)	<input type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業(防災・安全交付金)	<input type="checkbox"/>
まちなかウォークアブル推進事業	<input type="checkbox"/>

都市再生整備計画の目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	長野県	市町村名	小谷村	地区名	つがいでこうげん ほんまのりくらくおんせん ほんま 小谷高原・白馬乗鞍温泉・白馬コルチナススキー場地区	面積	1400.0 ha
計画期間	令和 8 年度 ~ 令和 12 年度	交付期間	令和 8 年度 ~ 令和 12 年度				

目標

大目標： 小谷高原・白馬乗鞍温泉・白馬コルチナススキー場地区の地域資源を最大限に生かした観光振興の実現

目標1： 通年型観光を支える滞在環境の整備・高度化

目標2： 広域連携による山岳リゾート価値の最大化

目標設定の根拠

都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の方針を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針) ※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。

まちづくりの経緯及び現況

小谷村は長野県の最西北端に位置し、北アルプス連峰の雄大な自然を背景に、小谷高原・白馬乗鞍温泉・白馬コルチナの3つの大きなスキー場を有する。

昭和40年頃から、豊かな自然と雪を活かしたスキー場開発による観光業が発展し、現在においても産業構造の中核を担う基幹産業。住民の雇用創出をはじめ地域経済への波及効果も大きく、小谷村の発展を支える重要な役割を果たしている。

一方で、近年は国内スキー人口の減少や旅行形態の多様化により、冬季観光に依存した需要構造では安定した誘客が難しい状況にある。インバウンド観光客は増加傾向に転じているものの、観光需要は依然としてスキーシーズンに偏在し、繁忙期の交通渋滞の慢性化、通年での誘客確保等に課題が残る。

それに対応するため、小谷村としては大北3市村の大町市、白馬村、小谷村の関係団体で構成する一般社団法人HAKUBAVALLEY TOURISMを中心として、広域的な観光誘客の推進等に取り組んでいる。

課題

- 通年化を可能にする、多様な観光客ニーズに対応した施設整備の不足
- インバウンドに加え、国内旅行者も呼び込むための広域観光連携の更なる強化
- 観光需要の増加に伴う交通・生活インフラ整備と防災機能の向上

将来ビジョン(中長期)

小谷村第6次総合計画後期計画(令和7年度策定)

・地域資源を活かした観光振興： 里山の原風景と暮らしの価値を再認識し、観光資源としての魅力を見つめ直しつつ、地域資源を最大限に活かした観光振興に取り組む。 自然環境を保全しつつ、一般社団法人HAKUBAVALLEY TOURISM を核に大北3市村で広域的な観光誘客を進める。

都市構造再編集中支援事業の計画

都市機能配置の考え方

都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等

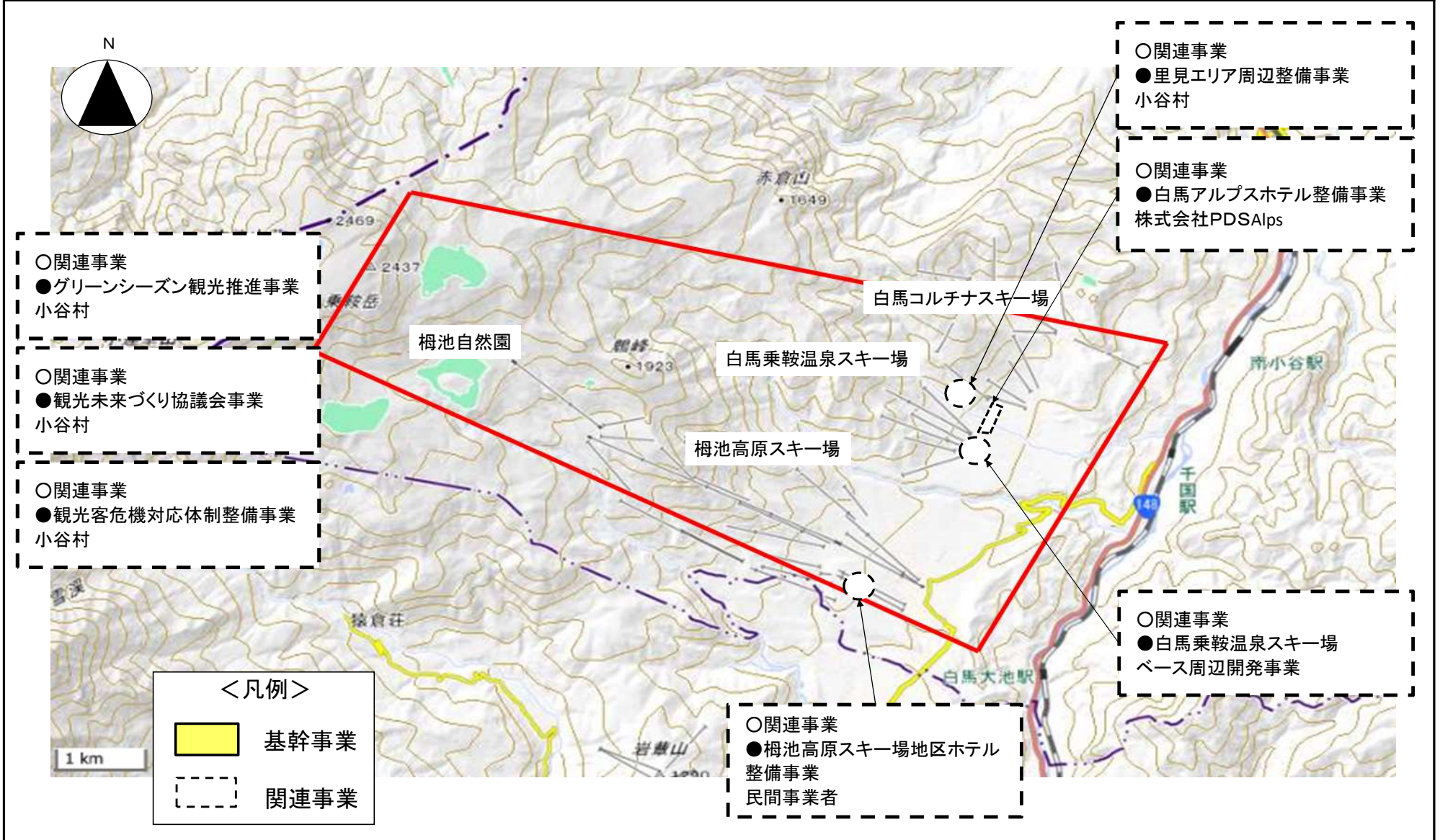
目標を定量化する指標

指標	単位	定義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
3スキー場入込客数	人/年	小谷高原・白馬乗鞍温泉・白馬コルチナススキー場入込客数	冬季のスキー場来訪者数を把握し、年間入込客数との比較により、シーズンによる観光客数の偏りを評価する	576,859/人	令和6年度	692,000人/年	令和12年度
外国人宿泊者数	人/年	村内での外国人宿泊者数	外国人宿泊者数を把握し、年間入込客数との比較により、国内外の観光客数の偏りを評価する	14,851人/年	令和6年度	18,000人/年	令和12年度
小谷村観光消費額	人/年	小谷村全体の観光消費額	小谷村における年間の観光消費額を把握し、地域経済への波及効果を総合的に評価する	9,060,000千円/年	令和6年度	11,172,000千円/年	令和12年度
小谷村年間観光入込客数	円/年	小谷村全体の入込客数	小谷村における年間の入込客数を把握し、通年型観光を支える滞在環境整備の効果を評価する	1,028,200人/年	令和6年度	1,166,000人/年	令和12年度

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>【通年型観光を支える滞在環境の整備・高度化】 ・宿泊施設の改修・機能強化を通じて、四季を通じて滞在しやすい受入環境を整えると共に、グリーンシーズンを含む観光コンテンツ、事業者間連携、来訪者の安全確保を進めることで、これまで冬に偏ってきた観光を長期間・通年型の滞在スタイルへと転換する拠点づくりを後押しする。 ・観光を支える人材や地域の担い手の定住を促す居住環境の整備を進めることで、観光サービスの質の向上と持続的な地域運営を支える基盤を形成する。 ・山岳上部エリアへのアクセス性や滑走環境の高度化を通じて、スキーリゾートとしての魅力を一層高める。更に、季節を問わず山岳エリアを楽しめるようになることで、地域の自然を通年で楽しむ回遊性を向上させる。 ・スキー場ベース周辺では、訪問客が快適に滞在・移動できる環境を整えることで、リゾート拠点としての機能強化を図る。訪問客の利便性を高める。</p>	<p>【基幹事業】</p> <p>【関連事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルプスホテル改修事業 ・スキー場ベース周辺開発 ・柵池高原スキー場地区ホテル整備事業 ・里見エリア周辺整備事業 ・グリーンシーズン観光推進事業 ・観光未来づくり協議会事業 ・観光客危機対応体制整備事業
<p>【広域連携による山岳リゾート価値の最大化】 ・周辺スキー場と連携し、道路網整備を含め、エリアをまたいだ移動のしやすさを高めることで、複数スキー場を一体的に楽しめる環境を整える。これにより、単一拠点にとどまらない多様な回遊ルートや滞在スタイルの創出を通じて、地域全体としての魅力と競争力の向上を図る。</p>	<p>【関連事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光未来づくり協議会事業
<p>その他</p>	

柵池高原・白馬乗鞍温泉・白馬コルチナススキー場地区(長野県小谷村) 整備方針概要図(都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金))

目標	大目標: 柵池高原・白馬乗鞍温泉・白馬コルチナススキー場地区の地域資源を最大限に生かした観光振興の実現 目標1: 通年型観光を支える滞在環境の整備・高度化 目標2: 広域連携による山岳リゾート価値の最大化	代表的な指標	3スキー場入込客数 (人/年)	576,859/人 (令和6年度) → 692,000人/年 (令和12年度)
			小谷村観光消費額 (人/年)	9,060,000千円/年 (令和6年度) → 11,172,000千円/年 (令和12年度)



栂池高原・白馬乗鞍温泉・白馬コルチナススキー場地区(長野県小谷村)	面積	1400.0 ha	区域	小谷地区の一部
-----------------------------------	----	-----------	----	---------

